

# 令和6年度事業計画及び収支予算の設定について

## I 事業運営基本方針

農業を取り巻く情勢は、内的には農業者の高齢化による担い手不足の一層の顕在化、「水田活用の直接交付金」の見直し問題、コロナ禍の影響の長期化による経済活動の自粛に起因する消費行動や販売環境の大きな変化、外的にはウクライナ情勢の緊迫化を背景とした燃料や肥料等の生産資材の価格高騰など、米穀のみならず、花きや果樹の需要や価格にも影響し、県内外の農業経営体や農村社会は引き続き多くの不安材料を抱えています。

農業を取り巻く情勢は厳しさを増す一方ではありますが、農業生産活動をストップさせることは出来ません。当種苗センターはその設立の趣旨である「農作物の優良種苗を一元的かつ安定的に生産供給するとともに、市場性を高めるために品質改善を推進することにより、岩手県内の農業経営の発展と岩手県民の食料の安定供給に寄与すること」の実現に向けて、主要作物部門、園芸作物部門、農産物検査部門及び管理運営部門の4部門について、近年の作付品種に係る需要トレンドや将来展望を踏まえた3カ年計画に基づきながら次のとおり事業を推進してまいります。

なお、本事業の展開にあたっては、岩手県並びに各農業団体との濃密な連携や適切な役割分担を図るとともに、県内外の需要を的確に把握しつつ、県種子条例に基づき、生産技術や方式の改善に努め、計画的で効率的な生産、供給を行うものとします。

### 1 主要農作物種子の生産供給

県種子条例及び関連要領に基づき、主要作物種子の計画的な生産と供給に取り組むとともに、関係機関・団体と連携し種子生産に関する研修会の開催や普及センターによる採種ほ場検査への立会を行い、優良種子の生産と種子事故の未然防止に努める。

公益目的事業として、精度の高い需要の積み上げに加えて状況に応じた的確な需要予測及び県が策定する主要農作物種子の生産計画に基づき採種ほ場を設置します。また、冷害等の気象災害に備え、一定量の種子備蓄を行うとともに、不測の事態における種子の確保にあたっては、他県を含めた関係機関との緊密な関係構築のもとに迅速かつ必要な措置をとるものとする。

### 2 園芸作物種子・種苗の生産供給

収益事業に位置付けられる園芸作物部門については、収益性の向上を図る必要があることから、特に産地の動向をなお一層注視するとともに、需要に応じた生産供給に努めるものとする。

また、センター内の水田ほ場の畑地化を進め、直営生産ほ場として整備活用することにより、製品歩留まりの向上と生産コストの削減につなげる。

また、新たな経営資源として、試作段階であるが薬用作物の培養苗種苗の生産に取り組む。イブキジャコウソウについては、農村環境保全活動事業の組織を中心に拡大普及・支援に努めるものとする。

### 3 適正な農産物検査の実施

水稻、麦類、豆類等の種子について、採種ほ場検査の立会や種子センターでの調製指導を行い、現物品の素性を十分把握した上で適正な検査を実施する。

#### 4 適正な法人経営

法人経営の展開にあたっては、中長期的な展望のもと、情勢の変化に対応した業務の効率化やコスト改善に努めるとともに、職員の意識改革や運営方法の見直しを積極的に進め、健全な経営に努めるものとする。

特に、公益目的事業については収支相償に十分配慮し、公益性を強く意識した事業運営を図る。

## II 事業計画

### A 農産種子事業（公益目的事業）

#### 1 農産種子対策

##### (1) 計画的生産と供給対策

事前に申し込まれた需要数量を基本に、従来品種から新品種への切り替え需要や、経営所得安定対策等の諸情勢を勘案し、関係機関・団体と協議の上、採種ほ場の品種配置や面積を確定し計画生産を行う。

##### ① 水稻種子

主食用品種の種子需要減少が続く中、「銀河のしずく」「あきたこまち」及び飼料用米品種を増産し、県の品種配置計画を加味した生産計画としている。

「あきたこまち」を増産する理由は、「銀河のしずく」への切替が緩慢となっているほか、備蓄在庫が底をついており、また秋田県では「あきたこまちR」への全面切替を行うことから他県からの購入が出来なくなるため、現時点でのJAからの要望を踏まえた生産を行う。

平成5年から30年間続いた「かけはし」の種子生産を終了する。

##### 【令和7年播種用水稻種子生産計画】

品 種 名	種子生産計画			採種ほ設置計画		
	生産計画A kg	前年計画B kg	前年比較A-B kg	計画面積 ha	前年増減 ha	前年比 %
サ サ ニ シ キ	16,800	16,800	0	4.0	0.0	100.0%
金 色 の 風	11,220	11,220	0	3.3	0.0	100.0%
ひ と め ぼ れ	897,540	908,040	▲ 10,500	213.7	▲ 2.5	98.8%
ど ん び し ゃ り	8,400	12,600	▲ 4,200	2.0	▲ 1.0	66.7%
銀 河 の し ず く	258,720	210,000	48,720	61.6	11.6	123.2%
あ き た こ ま ち	163,800	126,000	37,800	39.0	9.0	130.0%
い わ て っ こ	63,000	67,200	▲ 4,200	15.0	▲ 1.0	93.8%
か け は し	0	5,040	▲ 5,040	0.0	▲ 1.2	0.0%
き ら ほ	2,000	2,000	0	一般産準種子予定		0.0%
吟 ぎ ん が	5,040	5,040	0	1.2	0.0	100.0%
ぎ ん お と め	3,360	3,360	0	0.8	0.0	100.0%
結 の 香	1,140	1,140	0	0.3	0.0	100.0%
そ の 他 う る ち	7,000	7,000	0	コシヒカリ等、県外委託		0.0%
う る ち 計	1,438,020	1,375,440	62,580	340.9	14.9	104.6%
こ が ね も ち	9,000	9,200	▲ 200	福島県へ委託		
ヒ メ ノ モ チ	102,000	104,000	▲ 2,000	25.5	▲ 0.5	98.1%
も ち 美 人	2,800	2,800	0	0.7	0.0	100.0%
め ん こ も ち *	0		0	0.0	0.0	取扱休止
カ グ ヤ モ チ	1,000	1,000	0	長野県へ委託		
も ち 計	114,800	117,000	▲ 2,200	26.2	▲ 0.5	98.1%
た わ わ っ こ	88,400	83,200	5,200	17.0	1.0	106.3%
つ ぶ ゆ た か	75,400	72,800	2,600	14.5	0.5	103.6%
飼 料 用 米 計	163,800	156,000	7,800	31.5	1.5	105.0%
合 計	1,716,620	1,648,440	68,180	398.6	15.9	104.2%

② 麦類種子

令和6年播種用の生産計画は、採種ほ設置会議において「銀河のちから」「ナンブキラリ」を増産し「ナンブコムギ」「ゆきちから」を減産、生産計画数量283t（前年▲1.9t）、採種面積110ha（前年▲7ha）で策定している。

小麦種子生産は収穫期の天候に大きく左右されることから、前年同様、備蓄種子の確保供給を計画に組み入れることで、種子安定供給を行う。

【令和6年播種用麦類種子生産計画】

作目	品 種 名	種子生産計画			採種ほ設置計画		
		生産計画A kg	前年計画B kg	前年比較A-B kg	計画面積 a	前年増減 a	前年比 %
大麦	ファイバースノウ他	3,525	3,125	400	県外委託		—
小麦	ナンブコムギ	73,600	87,900	▲14,300	3,300	▲1,300	71.7%
	ゆきちから	162,000	170,100	▲8,100	6,000	▲300	95.2%
	銀河のちから	35,100	17,550	17,550	1,300	650	200.0%
	ナンブキラリ	9,720	4,050	5,670	360	210	240.0%
	小 計	280,420	282,725	▲2,305	10,960	▲740	93.7%
合 計		283,945	285,850	▲1,905	10,960	▲740	93.7%

③ 大小豆雑穀等種子

令和7年播種用（6年産）大豆種子は、採種ほ設置会議において、「リュウホウ」を14%増産し、生産計画数量145t（前年+13t）、採種面積6,940a（前年+590a）で策定している。

令和6年播種用（5年産）大豆種子需要は4月に再度取り纏めを実施し増加が見込まれるため、備蓄種子の活用や転用種子を確保し種子安定供給を行う。

【令和7年播種用大小豆雑穀類種子生産計画】

作目	品種名	種子生産計画			採種ほ設置計画		
		生産計画A kg	前年計画B kg	前年比較A-B kg	計画面積 a	前年増減 a	前年比 %
大豆	ナンブシロメ	3,600	6,660	▲3,060	200	▲170	54%
	シュウリュウ	10,500	10,500	0	500	0	100%
	リュウホウ	130,200	114,450	15,750	6,200	750	114%
	ユキホマレ	720	540	180	40	10	133%
	その他	200	210	▲10	県外委託		
	大豆計	145,220	132,360	12,860	6,940	590	109%
小豆		150	150	0	10	0	100%
そば・雑穀類		4,892	5,430	▲538	386	▲35	92%

※大豆その他（福島県 タチナガハ200kg）

【令和6年播種用大小豆雑穀類種子需給表】  
（令和6年5月17日現在）

単位：数量 kg、%

項目 品種名	生産計画 数量	種子確保 数量(A)	当初申込 数量	申込数量 (B)	残数量 (A)-(B)	R5年用 配付実績(C)	前年比 (B)/(C)
ナンブシロメ	6,660	5,880	6,570	4,290	1,590	4,320	99.3
シュウリュウ	10,500	12,540	9,870	9,360	3,180	9,930	94.3
リュウホウ	114,450	131,100	113,430	119,130	11,970	123,900	96.2
ユキホマレ	540	360	360	330	30	810	40.7
その他	210	1,270	210	1,270	0	770	164.9
大豆計	132,360	151,150	130,440	134,380	16,770	139,730	96.2
小豆類	150	150	84	149	1	97	153.6
そば・雑穀類	4,680	3,833	—	2,813	1,020	3,871	72.7

## (2) 種子生産組織の強化

水稲種子需要の減少を背景に、各種子センターの経営基盤が脆弱化してきている。また、一方で採種ほ場としての一団の農地確保も困難性を増している。生産組織の内情については、高齢化による担い手不足が顕在化しており、さらには老朽化した施設についての整備要望が高まっている。こうした現状に対応するため、県や関係団体及び生産者とともに種子生産の体制強化に係る諸課題の検討をスタートさせる。

- ・種子生産に係る現状と課題についての調査・分析を進める。
- ・課題解決策の構築に向けて、県、関係団体及び種子生産者との連携を一層強化する。
- ・「種子生産対策助成要領」に基づく、岩手県種子生産部会協議会及び現地の種子生産組織の運営支援を継続する。

## 2 品質改善対策

### (1) 産米品質改善対策

高品質・良食味の「いわて純情米」の安定供給を推進するため、「いわてのお米ブランド化生産販売戦略推進協議会」に参画して関係機関・団体と連携し、品種配置や栽培管理の情報提供など、次の諸対策を取り進める。

#### ①食味の安定向上等に向けた目標

- ・ 1等米比率 95 % 以上
- ・ 整粒歩合 80 % 以上
- ・ 種子更新率 100 %
- ・ 玄米タンパク質含有率 6.8 % 以下

#### ②安全出穂期を考慮し、実需に対応した適品種の作付推進

#### ③適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底

#### ④技術対策諸会議の開催

#### ⑤技術資料等の作成、配布

### (2) 麦類、大豆等品質改善対策

経営所得安定対策等の見直しによる国産麦・大豆の生産拡大への対応や実需者ニーズにあった商品性の高い麦・大豆生産に向け、関係機関・団体と連携し次の諸対策を取り進める。

#### ①優良種子の生産、供給

#### ②適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底（赤カビ病被害粒混入防止）

#### ③品質改善目標

- |        |    |       |    |     |
|--------|----|-------|----|-----|
| ・ 適正水分 | 小麦 | 12.5% | 大豆 | 13% |
| ・ 整粒歩合 | 小麦 | 80%   | 大豆 | 85% |
| ・ 1等比率 | 小麦 | 80%   | 大豆 | 50% |

#### ④種子更新目標

- |         |    |       |    |       |
|---------|----|-------|----|-------|
| ・ 種子更新率 | 小麦 | 90%以上 | 大豆 | 70%以上 |
|---------|----|-------|----|-------|

### 3 種子需給調整対策

作柄変動や品種の需要動向により採種数量及び種子需要が変動する場合にあっても種子の安定供給が出来るように努める。この場合の県外産種子の確保経費、残量処理に要する経費、種子備蓄に要する経費等については極力抑制する。

#### (1) 種子確保対策

- ・円滑な種子需給を図るため、各関係機関・団体による採種ほ設置会議等を開催し採種計画を策定する。

#### (2) 残量処理対策

- ・水稻種子は予約精度の向上を図り、消毒済種子の残量発生を抑える。
- ・麦類及び大豆種子は備蓄種子の活用を計画し、残量発生を抑える。

#### (3) 種子備蓄対策

- ・水稻種子は県オリジナル品種を中心に令和5年産種子を70トンを備蓄する。今後、定期的な現物確認・発芽試験等を実施し、緊急時の安定供給に備える。
- ・麦類及び大豆種子は定期的な現物確認・発芽試験を実施し、備蓄種子の品質確保に努める。

### 4 種子事故防止対策

県種子条例に基づき、関係機関・団体と連携し優良種子生産に努め、種子生産組織の採種ほ巡回や指導会へ積極的に参加し、混種・発芽不良等の事故防止対策の徹底を図る（DNA鑑定の実施、消毒済種子の発芽試験・温湯消毒発芽試験・低温浸種時の発芽試験等の実施）。

事故防止対策等必要な経費が生じた場合は、事故対策資金取扱規程により事故防止委員会等に対策経費の支出を諮る。

#### (1) 採種ほ場病害対策

水稻採種ほ場のイネばか苗病対策は、継続して関係機関の指導と団体の協力を得て、育苗期や本田期における採種ほ場周辺の発生防止や巡回によるチェックを実施する。細菌病対策についても関係機関・団体と連携して万全を期し、種子品質の安定化を推進する。

#### (2) 異品種混入防止対策

育苗から収穫乾燥・調製まで様々な段階での巡回確認・指導を行いコンタミ防止に努めるとともに、種子に異品種の混入がないことを確認するためDNA鑑定を実施する。

新品種「岩手141号」の種子生産開始に向け、岩手町地区種子場でナラシ栽培を4ha実施し次年度の採種ほ設置に向けた準備をする。

#### (3) 備蓄種子の品質確認

備蓄種子は当センターの「水稻種子備蓄の管理運営要領」、「麦類及び大豆種子備蓄の管理運営要領」に基づいて、定期的に品質確認（発芽調査等）を実施する。

## B 園芸種苗事業 (収益事業1)

### 1 果樹苗木対策

供給計画は、各 JA に需要動向の聞き取り調査を実施し、関係機関・団体とのりんご苗木生産計画会議において検討した内容に基づいた計画とした。

直営生産のりんご苗木は、センター内のほ場と江刺地区内の借上げほ場に集約し、県オリジナルりんご品種「紅いわて(岩手7号)」、「大夢」、「雪いわて」や地域オリジナルりんご系統「ふじ」等を主体に生産し、その他の品種は委託生産と需要に応じ仕入供給の対応を行う。

また、醸造用品種のブドウ苗木の需要が落ち着いてきており、供給本数も減少してきていることから需要を踏まえた供給計画とした。

果樹苗木全体で32,000本の供給を目指す。

#### 【供給計画及び前年実績】

(単位:本)

種類/品種	供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
直営生産供給					
紅いわて(岩手7号)	2,200	2,000	110%	1,960	112%
大 夢	200	100	200%	130	154%
雪 い わ て	100	100	100%	69	145%
は る か	2,100	1,900	111%	2,191	96%
地域オリジナルふじ	460	500	92%	498	92%
その他オリジナルふじ	4,800	5,000	96%	5,564	86%
台木(JM7・M26他)	9,000	10,000	90%	8,897	101%
りんご苗木 小計	9,860	9,600	103%	10,412	95%
りんご台木 小計	9,000	10,000	90%	8,897	101%
取次供給					
き お う	550	600	92%	671	82%
さ ん さ	100	100	100%	212	47%
つ が る	670	500	134%	1,163	58%
ジョナゴールド	1,820	1,300	140%	1,465	124%
ふ じ	1,000	1,300	77%	1,049	95%
シナノゴールド	2,200	3,000	73%	3,576	62%
そ の 他	2,800	500	560%	3,032	92%
りんご苗木 小計	9,140	5,900	155%	11,168	82%
一般果樹苗木 (ぶどう・桃・梨他)	3,900	3,700	105%	3,752	104%
景観形成緑化花木苗木 (桜・ツツジ他)	100	1,100	9%	1,350	7%
苗木 小計	4,000	10,000	40%	8,897	45%
苗木、台木 合計	32,000	30,000	107%	35,579	90%

※りんご台木は、ほぼ矮性台木となっている。

※取次供給は、外部委託生産分を含む。

※その他は、王林、青林、トキ、紅玉他となっている。

## 2 花き種苗対策

### (1) りんどう種苗

供給計画は、JAに需要調査を実施し、検討した内容に基づいた計画とした。

種子系りんどうは、高温対策や親株管理の徹底を図り優良種子の確保と安定供給に努める。

栄養系りんどうは、鉢物品種需要の落ち込みが懸念されているが、産地の需要動向の把握に努め需要に即した生産と供給を行う。また、切花品種で一戸町オリジナル品種も需要が増加する見込みであるため、産地と連携を図り販売と需要動向に対応した生産体制の充実を図る。

#### 【供給計画及び前年実績】

(単位 種子系：ml、栄養系：本)

種類/品種 (商標・系統)		供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
早生種	いわてVEB6号 (いわて夢あおい)	51	57	89%	59	86%
	いわてVEB-7号 (いわて夢ざんが)	7	29	24%	6	117%
	マシリィ	10	5	200%	15	67%
	マジエル	35	21	167%	33	106%
	いわてEB-1号 (恋りんどう)	80	62	129%	79	101%
	いわてEB-2号 (いわて夏のあい)	62	60	103%	61	102%
	いわてEB-3号 (恋りんどう)	51	60	85%	43	119%
	いわてEB-4号 (新規)	43	—	—	—	—
早生種	小 計	339	298	114%	296	115%
中生種	いわて	0	0	—	1	—
	いわてMB-2号 (いわて晩夏のあい)	25	29	86%	30	83%
中生種	小 計	25	29	86%	31	81%
晩生種	いわてLB-2号 (いわて夢みのり)	0	0	—	2	0%
	いわてLB-3号 (いわて夢のぞみ)	64	59	108%	32	199%
	いわてLB-4号	2	3	67%	4	50%
	いわてLB-5号 (いわて中秋のあい)	63	80	79%	67	94%
	いわてLB-6号	12	27	44%	16	75%
晩生種	小 計	141	181	78%	133	106%
極晩生種	いわてVLB-1号 (いわて夢みつき)	0	4	—	5	0%
	アルタ	15	25	60%	15	100%
極晩生種	小 計	15	29	52%	20	75%
鉢物	いわて乙女	180	185	97%	178	101%
鉢物	小 計	180	185	97%	178	101%
種子系りんどう	合 計	700	722	97%	658.6	106%
鉢物	ももずきんちゃん	2,400	2,700	89%	2,680	90%
	BZC-1 (いわてあおりん)	250	700	36%	750	33%
	新規 Bzc-1_mut1	500	700	—	0	—
	いわてDFGPB-1号 (いわて八重の輝きブルー)	650	1,000	65%	1,200	54%
受託品種 (取次供給含む)		53,400	60,390	88%	60,310	89%
栄養系りんどう	合 計	57,200	65,490	87%	65,710	87%



(2) グランドカバープランツ

イブキジャコウソウ種苗は、需要の落ちみがあるが、県内外の組織での動きが出てきたことから需要動向を注視し優良種苗の生産に努める。また、山田町の農村環境保全活動事業と連携を図りながら支援に努める。

【供給計画及び前年実績】

種類／項目	単位	供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
イブキジャコウソウ	本	8,000	10,000	80%	11,266	71%
参考) 想定面積	m <sup>2</sup>	1,280	1,600	—	1,803	71%

3 野菜種苗対策

(1) 栄養繁殖系野菜種苗

いちご種苗については、需要に応じた優良種苗の生産と供給を行う。

【供給計画及び前年実績】

種類／項目	単位	供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
北の輝（直営生産）	株	101	300	34%	180	56%
宝交早生（直営生産）	株	99	150	66%	278	36%
その他（業者取次）	株	3,800	2,100	181%	2,880	132%
いちご苗 計	株	4,000	2,550	157%	3,018	133%

※業者取次：その他（やよいひめ、紅ほっぺ、恋みのり、さちのか）

(2) 種子繁殖系野菜種苗

受注生産を基本とし、需要に応じた種苗供給を行う。

【供給計画及び前年実績】

種類／項目	単位	供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
カボチャ／南部一郎	株	200	200	100%	210	95%
なばな／はるの輝	ml	1,000	1,000	100%	1,050	95%

4 薬用作物

(1) 栄養繁殖系薬用作物種苗

平成29年から提携してきた、生薬会社との薬用植物種苗試作委託契約に基づき計画生産を行う。また、培養苗種苗の安定生産を確立するため、生薬会社から技術指導を受け、生産技術の向上を図るとともに、生産マニュアルの作成を行う。

【供給計画及び前年実績】

種類／項目	単位	供給計画 (A)	前年計画 (B)	前年計画 対 比 (A)/(B)	前年供給 実績数量 (C)	供給計画 前年実績 対 比 (A)/(C)
薬用作物	本	3,000	3,000	100%	3,000	100%

## C 農産物検査事業 (収益事業2)

立毛中から採種ほ場の生育状況を確認し、産地別、品種別にきめ細かに調製作業の指導を行うとともに、適正検査を実施する。

【種子検査計画数量】

(単位：数量 t)

品 目	検査計画数量	検 査 場 所
水 稻	1,697	JA 新いわて岩手町種子センター 他 6ヶ所
麦 類	280	株式会社グレンシーズ花巻 他 1ヶ所
豆 類	145	JA 新いわて軽米ライスセンター 他 1ヶ所

## D 管理運営

### (1) 健全経営

担い手の高齢化など農業を取り巻く環境などや農業生産現場の厳しい状況が続く中、今後の種子種苗の需要動向を見極める事業運営を図るとともに、新たに、令和6年度に策定する事業運営3カ年計画（令和6年～令和8年）を基本とし健全経営に努める。

なお、農業を取り巻く情勢に柔軟に対応し、業務の効率化やコスト改善に取り組むとともに、職員の意識改革や作業員の就業意欲の向上を図り健全経営に努める。

また、長期預り金の5億円は、安全性を最優先に長期国債で引き続き運用を図る。

### (2) 適正な管理運営

令和6年3月5日の閣議にて「公益法人制度に関する法律」を改正する法案が閣議決定された。

国会で法案が通った後、令和7年の年明けに都道府県への新制度の説明・周知が行われ、4月に法令が施行される予定である。この改正は、単年度収支の赤字を強いるととらえられてきた「収支相償」の規制緩和や、公益事業の持続・発展のために留保できる資金の創設など、公益活動を活性化する視点での改正となる。

こうした動きに対して、事務監査の主管課である県庁総務部行政経営推進課の指導の基、各種手続きを適正に行うとともに、事業運営などをホームページなどで適切かつ公正に情報を開示する。

適格請求書発行事業者として、適正な事務処理に取り組む。

### (3) 人材育成等

リスク管理規程及び対策マニュアルに基づき、健康管理講座や交通安全対策に係る研修会等の開催により、安全な職場環境の維持に努める。

職員の能力開発及び情報処理に関するセミナーの受講、種子種苗の安定生産に関する技術研修への参加や、関係機関・団体が開催する研修会等へ計画的に参加し事業環境の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。

また、人事評価制度を活用しながら、職員の就業意欲と能力向上を促進する。